

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月26日(土)

### 《子どもたちのために》

皆様は子どもの頃幸せでしたか？不幸だったと思う人はいますか？いませんね。では、幸せだったのですね。そして、その幸せの基準は、お金や家庭の裕福さとは関係なかったのではありませんか。きっと、お腹がすいても幸せだったのでしょう。

人類の歴史を振り返ってみると、人間がいつも守ってきた最低のモラルがあります。それは、子どもに対する心です。戦争が起こっても何があっても、“子どもは守るもの”であることをどの国でも分かっていました。しかしいつの間にか、子どもを戦場に連れ出し、子どもを利用して自分の利益を得ようとする時代になってしまいました。そして最近では、子ども達を虐待する時代にさえなってしまったのです。

人間が犯す罪にはいろいろなものがありますが、中でも一番大きいのは、たぶん子どもに対する罪だと思います。キリスト信者としては、飢え死にする子ども達がたくさんいることに心を痛めなければ、それもある意味では罪になります。今、リビアやエジプト、アフリカでたくさん子ども達が死んでいます。日本も全く同じです。子どもを利用してお金を儲けようとする人がたくさんいます。どの国も同じです。神学的には、この世が終わりに近づいた印の一つは子ども達に対する人々の心の変化だと言います。どんな悪人でも、子ども達を悪くした時代はありませんでした。しかし、今はどこでも当たり前のようにそういうことが見られます。

私たちが子どもの頃は、貧しくてもみんな先生を尊敬していました。先生の一言を神様の言葉のように固く信じていました。今はどうでしょうか。親が先生を信じないように仕向けています。「そんな質問をするのは先生が悪い。」と言い、子ども達が先生に尊敬感を持たないようにさせています。もし先生が子どもに「あなたが間違えたのだから罰を受けなければならない。」などと言えば、大騒ぎになります。どこに行っても全く同じです。結局、人間の利己心が、この世を駄目にした結果だと思いません。

皆様、昔から子どもはある意味で一つのシンボルでした。人間が人間らしく生きているシンボルでした。子どものためならば何でも許された時代が、私たちの経験してきた時代です。しかし今は、子どもがそのシンボルでない時代になってしまいました。では、どうしたらよいのでしょうか。私たちができることは何なのでしょう。その答えを一つ申しあげます。少なくとも、そのようなことに対して心を痛めることです。何かの頼りやニュースが耳に入ったら、本気で心を痛めてください。そのような経験がなければ、私たちはクリスチャンとは言えません。いいえ、クリスチャンである以前に、人間とは言えません。その痛みを自分が感じることで、子ども達のために何をするべきかがわかるのです。

皆様、うちの教会にもたくさん子どもたちがいます。中には親のために教会の生活ができない子どもたちもいます。この頃の若いお母さんたちは、口だけで「愛している、愛している」と言いながら、本当は子どもに何をしてあげればよいのか全然分かっていないのです。それについて、いつか必ず神様に聞かれると思います。

今日のこのミサは、神様がくださった何よりも大事で尊い子どもたちのために捧げるミサにしたいと思います。

ありがとうございました。